

ギル・ブレントン

- 1 ギル・ブレントンは海のむこうに使いをやって
結婚を申し込み 花嫁を迎えることになりました
- 2 嫁入り支度は百四十隻の船
緑の森の高貴な女
- 3 ビールとワインが十二の二倍
ムスカデワインが十二の二倍
- 4 ふるった小麦粉十二の二倍
こねた小麦粉十二の二倍
- 5 焼いたパンが十二の二倍
輝く金貨が十二の二倍
- 6 ウイリーは未亡人の息子
あぶみの脇を馬についてゆきました
- 7 女は豪華に着飾って
けれど ああ 涙が流れて止みません
- 8 女は花で身を飾り
けれど ああ 涙が流れて止みません
- 9 「靴に水が入ったの
それとも 手袋に風が入ったの
「後に残したやさしいお母さんを
思い出して嘆いているの
- 10 悲しんでいるの」
- 11 「ギル・ブレントンさまの花嫁になったことを
悲しんでいるの」
- 12 「靴に水が入ったのでも
手袋に風が入ったのでもありません
「ギル・ブレントンさまの花嫁になったことを
悲しんでいるのでもありません
- 13 悲しんでいるのでもありません
- 14 「後に残したやさしい母を
思い出して嘆いています
- 15 「小姓よ こちらのお国の慣わしを

わたしに教えてくださいな」

16 「優しい女は
その慣わしを嫌います

17 「王さまは七人の王女と結婚し
七人みんなと寢床を共にされました

18 「でも王さまは 胸から乳房を切り取って
嘆く王女さまたちを 里へ送り返されました

19 「あなたがお城の門に着いたとき
王さまの母君が 金の椅子を用意して

20 「生娘かそうでないかを試そうと
日が暮れるまで あなたを椅子に座らせませす

21 「あなたが確かに生娘ならば
無事に花婿のベッドにゆけるでしょう

22 「あなたが生娘でないならば
侍女に代りをお頼みなさい」

23 女がお城の門に着いたとき
王さまの母君が 金の椅子を用意して

24 生娘かそうでないかを試そうと
日が暮れるまで 女を椅子に座らせませました

25 女はお供の侍女を呼び寄せて
身代りを頼みました

26 「五百ポンドをあげましょう
わたしに代って 王さまと一晚寝てちょうだい」

27 鐘が鳴り ミサがうたわれ
人が皆 寝静まるころ

28 ギル・ブレントンと美しい侍女は
寢室で横になりました

29 「毛布よ答えよ シーツよ答えよ
頭の下の枕よ答えよ

30 「ぼくが娶めとったのは生娘なのか
ぼくが寝たのは生娘なのか」

3 1 「あなたが娶^{めと}ったのは生娘じゃない
でも あなたが寝たのは確かに生娘

3 2 「花嫁は きれいなお部屋でひっそりと
あなたを想って ひどく苦しんでいるところ」

3 3 王さまは広間を通ってゆきました
母君のところに行って来ました

3 4 「ぼくはキリスト教国で
一番不幸な男です

3 5 「か弱くて優しい女に言い寄ったのに
孕^{はら}み女を 娶^{めと}ってしまった」

3 6 「おまえはこのまま ここにいて
家来たちと待っていなさい

3 7 「むこうのきれいな部屋にゆき
卑しい女を見てきましょう」

3 8 王さまの老いた母君はしつかり者で気丈者
扉を破って 部屋の中に踏み込みました

3 9 老いた女王さまはしつかり者で頑固者
扉を破って 部屋の中に踏み込みました

4 0 「腹の子は貴族のものか農夫のものか
それとも 召使のものなのか」

4 1 「お腹^{なか}の子は貴族のものでも農夫のものでも
召使のものでもありません

4 2 「聞いて下さい お願いします
わたしが受けた苦しみをお話します

4 3 「わたしたちは七人姉妹
この世に比べようもない 美人ぞろいの七人姉妹

4 4 「七年という間 お兄さまのシャツを縫うだけが
わたしたちの仕事でした

4 5 「ああ 土曜の午後になって
長い仕事が一段落

46 「わたしたちはくじを引き
緑の森に誰がゆくのか決めました

47 「ああ わたしは一番末の妹で
一番こわい目に遭いました

48 「くじはわたしに当たりました
それが呪いのはじまりでした

49 「緑の森にゆきました
リンボクの実を拾うため

50 「赤いバラとタイムを摘んで
母とわたしたちの部屋にまき散らすため

51 「花を一輪摘まぬうち
ハンサムな若者がやってきました

52 「ハイカットの靴下に ローカットの靴をはき
どこかの王子さまのようでした

53 「生娘かそうでないかも構わずに
日が暮れるまで 彼はわたしを離しません

54 「生娘かそうでないかも構わずに
日が沈むまで 彼はわたしを引きとめました

55 「金髪を一房くれて
いつまでも大切に と言いました

56 「すてきな黒玉の首飾りをくれて
肌身離さず大切に と言いました

57 「りっぱな金の指輪をくれて
何よりも大切に と言いました

58 「小さな鞘付きナイフをくれて
命と思って大切に と言いました」

59 「すばらしい贈物はどうしたもの
おまえが若者からもらったものは」

60 「あの箱をこちらに持ってきておくれ
贈物をあなたさまにお見せしましょう」

61 箱が手元に届くまで

- 女王さまは今か今かと気をもみました
- 62 「ああ 嫁よ 部屋の中で待っておいで
息子と話をつけてくるから」
- 63 王さまの母君は広間を通つてゆきました
そして 息子に聞きました
- 64 「あのりっぱな金の指輪をどうしたの
何よりも大切に」と言ったのに
- 65 「あの小さな鞘付きナイフをどうしたの
命と思つて大切に」と言ったのに
- 66 「あの金髪をどうしたの
いつまでも大切に」と言ったのに
- 67 「あのすてきな黒玉の首飾りをどうしたの
肌身離さず大切に」と言ったのに」
- 68 「美しい女にやりました
ある日森で出会った女
- 69 「その女をこの城に迎えることができるなら
父の領地を全部捨ててもかまわない
- 70 「その女をこの部屋に迎えることができるなら
広間と塔を全部捨ててもかまわない」
- 71 「ああ 息子よ お父さまの領地はそのままだ
その女はお城の中にいるのです
- 72 「広間も塔もそのままだ
その女はおまえの部屋にいるのです」
- 73 およそひと月経ちました
女はかわいい男の子を産みました
- 74 赤子の胸に はっきり書いてありました
「ぼくの父の名は ギル・ブレントン」